

2Sa-2

## 独身勤労者住宅におけるカビの実態調査

○相原真紀\* 田中辰明\*\*

(\*お茶大・院, \*\*お茶大)

【目的】 アレルギー性疾患は現在国民病とも言われ、そのアレルゲンの一つにカビ(真菌)がある。これに対して住居内におけるコントロールが重要視されているが、そのためにはカビの生育状況、季節、住環境、人のライフスタイル等をよく考慮して適切な対応を行う必要がある。そこで本研究は、住宅に発生するカビの季節変化や住環境条件における動態調査を行い、その基礎的データの収集を行った。

【方法】 女性独身勤労者が居住している、横浜市昭和62年竣工、延べ床面積49m<sup>2</sup>の鉄筋コンクリート造賃貸集合住宅において、1996年6月から半年間にわたり実験を行った。

付着菌に関しては、各部屋の壁、床、カーテン、窓など計106ヶ所をサンプリング点とし、10×10cmの範囲をスタンプスプレッドで拭き取り、PDA、M40Y培地にそれぞれ培養した。落下菌に関しては、各部屋ごとにPDA培地を10分間解放して採取した。さらに掃除機によって集めたハウスダスト中のカビについても希釈法によって調査した。また各部屋の温度、湿度の測定も行い、カビの生育との関連性を検討した。

【結果】 浮遊菌の優占種はほとんどの地点において*Cladosporium*属であったが、付着菌に関してはそれぞれの地点で優占種が異なっていた。一般にカビは湿気の多い時期に発生しやすいと言われているが、期間を通して住宅の各部に発生が認められた。